

学士編入の一例

0. はじめに

ずいぶんと遠回りし、高校卒業後 10 年強で結果が出ました。嬉しい反面、これからが大変な毎日です。

自分は頭がキレる方ではなく、要領が悪く、怠ける癖があると思います。しかし長い間受験生活を送っていく中で徐々に勉強術が brush-up されていったような気がします。その過程を、後に続く誰かのために残しておきます。

あくまで事後分析です。実施形式を含め、今後の傾向は知りません。情報のひとつとして参考にしてください。

1. これまでの道のり

[1.1 高校卒業後]

医師になりたいと思うまでの経緯を書くと得てして陳腐になりがちなので、ここでは割愛します。自分は器の小さな人間なので、国際的な人道支援、基礎研究でノーベル賞、といった類いの壮大な野望は抱いていません。純粋に科学としての医学に興味を持ったのが始まりです。

出身高校は地方の公立高校です。大都市の高校とは色々な点で違いました。成績の良い生徒は自由に勉強し、それなりの生徒は浪人してがんばる...という雰囲気でした。理系の卒業生の進路は旧帝大や東工大の理系学部が多く、他には地元を含む国公立の医学部、といった感じです。

高校を卒業後に地元の予備校に、翌年には駿台市谷校に通いました。失敗の原因はセンター試験に弱いことでした。基礎を大事にしておらず、模試の点数にもムラがありました。結局良い結果が残せず、私立の理工学部に入りました。もともと理工系の勉強は嫌いではなかったのですが、違和感を抱きつつ毎日を過ごしていました。

入学後も仮面浪人で受験を重ね、やはりセンター試験でコケたために医学部をあきらめ、同じ医療系であり、研究の道も歯科臨床の場における主治医としての道もある医科歯科大の歯学部に入学することになりました。

[1.2 医科歯科大]

昨今の全国的なカリキュラム改変の動きはありますが、大まかに医科歯科大の歯学部では 1~2 年次に教養教育、3 年次からは基礎医学・歯科専門科目・隣接医学・研究室実習、そして 6 年次に臨床実習があります。(全国的には 2 年生くらいから専門科目が入るようです)

定期試験の合間を縫って * 共用試験・研修医採用試験・国家試験(国試・こくし)の準備をしなければなりません。私立大学では 1~2 年の国試対策期間が設けられていますが、国公立大学の場合は実習の進み具合により試験直前まで勉強できないことがあります。自分も 1 月まで診療をしていました。
* 全国共通バリア試験のようなもの。CBT と OSCE からなる。

定期試験では多い時で十数科目が課されるため、効率的な勉強をせざるを得ませんでした。情報収集のための試験対策(シケ対・シケブリ)の文化に触れたのも幸いでした。

臨床実習(D6)で虫歯を治したり入れ歯を作ったりと、一連の歯科診療ができたことは貴重な経験でした。病棟の実習では注射の練習をしたり、全身麻酔下の手術に立ち会ったりしました。術中の口頭試験はスリル満点でした。扱う領域は違うものの、今思えば大きな糧になりました。

歯学部在学中に編入試験の対策をすることについて。司法試験受験生などの場合、在学中のダブルスクールは当たり前なのですが、歯学部の場合は患者さん相手なので責任は大きく、中途半端は許されません。自分の場合は予備校に行く時間もなく、診療後や週末に時間をとって勉強しました。診療後に羽田にダッシュしていたのも今では良い思い出です。

臨床実習と並行して何とか合格を果たしましたが、学内の人間関係、技工物の製作を含む診療の準備、カルテを含む書類の作成や就職の問題などが山積みです。うまくやりくりをしないと周りに迷惑をかける可能性もあり、安易におすすめはできません。「学生としてではなく、仕事をしながら受験しているんだ」と思うとさほど苦にはなりませんでした。

就職の問題の一例として(2007年度)3月入試の秋田大は社会人や、就職が決まって卒業を控えた学生などは事実上受験できませんでした。一般入試後期と同様に合格発表から手続き~入学までの期間が短く、突然の辞職が社会通念的に許されないためです。

余談ですが、5 年生の頃に学内の海外留学選考に応募しました。語学力が原因だったのか次点となり、準備や滞在の予定の分の空き時間ができました。今になって思うと、このことで編入試験の勉強に集中できたのかもしれない。当時は落ち込んでいましたが、人生わからないものです。

[1.3 歯科医師]

前出の主治医という言葉ですが、古くはヒエラルキー、最近ではコメディカルやチーム医療という概念があります。良くも悪くも医療は多数の人間の連携で成り立っています。受験生の中には看護師や薬剤師のみなさんのように医療の世界で立派に働いていたものの、満足が得られなかったり、体制に不満があったりすることが動機の人も多いようです。

歯科医師は歯科衛生士や歯科技工士のみなさんとともに診療にあたる他、口腔外科等では看護師さんとも連携します。治療方針を決め、薬は自分で処方します。(処方箋を書くということ)近年では偏差値の暴落や歯科医師過剰問題があ

るものの、歯科医師は主治医になれる職種であるところがコメディカルとは違うと思います。

入学するまで歯科の世界に触れたことがありませんでした。ひと通り学んでみて「入れ歯やかみ合わせなど、精密な学問から成っている割にはその内容が世間に浸透しておらず、しかも正直にやるほど儲けも少ない」ことを知りました。

世間から歯科医は「歯を削られてしまう」「痛い」「金持ち」といったような負のイメージを持たれることが多いです。一方で日本では世界有数のハイレベルな保険診療が実現しており、安い金額で白い詰めものができたりします。このことはあまり認知されていません。予防やインプラントなども含め、今後もますます患者さん(+患者さんでない人々)への広報・意識改革が必要になることでしょう。

隣接領域から医学部の門を叩いたとはいえ、慣れないことの連続です。歯科は外科的な処置が多く、滅菌や消毒などは非常に厳しかったので、内科医の先生方が手も洗わず、マスクもせずに何十人もの患者さんを診ている光景には驚きます。観血処置が少ないので構わないという考えなののでしょうか。

[1.4 相互編入]

歯学部では「全身管理」「全人的医療」などの言葉をよく耳にしました。全身解剖や生理学などの基礎医学に加え、口腔外科・隣接医学・全身麻酔などを教わることもあり、医学全般を学びたいという学生が現れても不思議ではありません。生協の前に学士編入予備校のパンフレットが置いてあったりすることも刺激になるでしょう。

医科歯科大学院概要のサイトでは1998年頃から「医歯学4年次相互編入」という構想を掲げていましたが、実現しないまま削除されました。話を聞いてみるとMD/DDS*・Ph.Dコースと同様、道がないわけではなかったそうです。しかし前例もなく、好成绩であっても難しかったと思います。

* Doctor of Dental Surgery (アメリカでの歯科の学位の呼称)

近年、全国的に医学部・歯学部のカリキュラムの要求が厳しくなり、基礎医学を学んだ学生とはいえ4年次に編入させるのがきついのでは理解できます。しかし全国でメディカルスクール構想を謳っている数少ない大学のひとつとして、ぜひ実現させて欲しいものです。

独立して教養部を残していることは全国で唯一らしいです。教養部側は規模が小さいながら非常に教育に熱心である一方で、大学としての明確なアカデミックポリシーのようなものは見えてはきません。これが組織の肥大化によるものなのか、内部での乖離によるものなのかはわかりません。

歯学・薬学・看護学系の出身者には「ダブルライセンス」という意気込みのようなものが感じられることがあります。しかし医学部側からすればあまり興味がないようです。このため相互編入が実現しても歯→医の一方通行になるのかもしれない。(現行の編入制度では医→歯の実例あり)

弘前大の最終面接ではダブルライセンスについて深く聞かれましたが、他の面接ではドライな感じでした。周りからいろいろと話を聞くうちに、看護系出身者には若干厳しめの質問があるのかな...という印象を受けました。医師からすれば歯科医師・薬剤師に比べて身近な存在だからでしょうか。

2. 計画と情報

[2.1 最終合否]

山口大：◎学科合格 → ×最終不合格
弘前大：◎一次合格 → ◎二次合格 → ◎最終合格
筑波大：×学科不合格
金沢大：×書類不合格
愛媛大：×書類不合格
島根大：◎学科合格 → ×最終不合格
鳥取大：◎学科合格 → 二次辞退
新潟大：◎学科合格 → ◎最終合格

目標通り、推薦書不要で学科重視の2校に合格しました。

[2.2 受験を決意]

編入試験の勉強を始めたのが2005年の11月でした。最初の試験までは約半年でした。倍率も15~60倍と高く、半ば宝くじ感覚でした。インターネットで情報を集め、予備校の無料説明会に行ったりしました。

この頃はポリクリに夢中で、麻酔学の実習などで生理学の復習などをしてきた記憶があります。編入の勉強としては軽く「エッセンシャル細胞生物学」を読んでいた程度です。あまり時間を稼ぐことができなかったように思います。

世の中の倍率いろいろ

アナウンサー試験 5,000倍
国家公務員I種行政職 100倍
岐阜大医学部 2011一般入試後期 92倍
インド工科大入試 60倍
旧司法試験 30倍
東京芸大美術学部絵画科油絵専攻 30倍
私立大医学部一般入試 20~30倍
東大前期入試 3~7倍
新司法試験初年度 2倍弱

試験一般にいえることですが、倍率は難易度を表すものではありません。例えば東大入試や新司法試験にはセンター試験のようなフィルタリングがあります。

一般入試は前期・後期の事実上2回の機会のみであり、センター試験で失敗した場合には選択肢が狭まります。一方、学士編入の場合は予算と都合に応じ機会を増やせます。このことと実質倍率を加味すると、必ずしも一般入試よりも厳しいとはいえないかもしれませんが、もちろん個人の適正という重要なファクターもあります。

[2.3 受験計画]

一般入試に加え、二年次後期入学入試を含む学士編入を視野に入れた場合は一年が試験の連続です。正しい計画と耐え抜く精神力、そしてお金が必要です。

不透明な選抜にエネルギーを費やしたくなかったので、学科重視の大学にしばって受験計画を組みました。山口大は学科通過後は学科の点数がチャラになるとのことで、受験にはあまり乗り気ではありませんでした。後日談ですが、配点を公表している愛媛大ですら学科がチャラになるそうです。

高校生物独特の範囲が出題されることもネックでした。高校生物は十数年放置のままで、遠い記憶の彼方でした。実際、デボン紀という問題も出ました。

2007年度入試から長崎大・富山大も二年次後期入学へ移行しました。しかし学部生の身分なので二年次後期入学の選択肢がありません。そこで機会を増やすため定員が10人と多く日程も早い山口大を受けてみることにしました。

(選択肢から外した大学)

北大：山口大二次と重複のため、受験できませんでした。

千葉大：都立病院の採用試験と重複していたので遠慮しましたが、結局どちらも受けませんでした。

秋田大：試験が3月に延期されたため保留。

信州大：学部と大学院の新卒限定で倍率が低かったのですが、要件である学部長推薦が鬼門でした。出すべき卒論がないのも不安でした。(医科歯科大と同じく、レポートで代替すればOKとのことでした)

群馬大：初期の頃から温泉入試で有名です。東京からも実家からも近かったのですが、不確定要素が多いことに加え、体力を消耗しそうなのでやめました。

名大・神戸大：入学後の雰囲気明らかに研究者養成なのでやめました。

阪大：倍率も低く学科重視なので検討していましたが、歯学部卒は受験資格がないそうです。盲点でした。ちなみに数学が廃止されるようです。

岡山大：筆記試験は何かいけそうな雰囲気でしたが、面接がきつそうなのでやめました。後で聞いたら普通だったとのことでした。

高知大：高齢者を取らなくなったとのうわさによりやめました。学科試験はそこそこ重厚で好感が持てました。

琉球大：漠然と遠いなと感じました。

[2.4 情報と方針]

まずは過去問を熟読しました。試験問題は「Yahoo! ML」「各種掲示板や各種ブログ」「予備校」などの手段を使えば誰でも手に入れます。突然閉鎖されるブログのように、ネット

のソースの質と量は毎年変動します。リンク集を利用するだけではなく、自分で探し出すのが基本です。

お金と時間の都合で予備校には通わなかったため、今回の一連の試験に関しては情報のほとんどをインターネットや飲み会で得ました。ここでIT関連の能力が生きてきます。巡回や検索を考えると、情報処理は紙媒体の何倍も速いです。

自分は子供の頃からコンピュータに親しみ、過去にその手のアルバイトなどを経験していたので良かったのですが、日頃そういったものに触れる機会も、学校で学ぶ機会もない人は要注意です。学士編入の世界でもデジタルデバイドを肌で感じました。(情報には目もくれず学力だけで乗り切った強者もちらほらいましたが)

Yahoo! や Google の検索窓にただ言葉を打ち込むだけが検索ではありません。図書館学や情報処理学という学問もあるように、検索術は非常に奥が深いです。作業の効率を追求すると時間が大幅に短縮されます。医学部入学後も文献検索などに役立つスキルです。(ただし、深入りしすぎて勉強が疎かにならないように...ブログの更新も然り)

[2.5 うわさとの付き合い]

合格する人数が少なく試験の内容の情報が少ない学士編入試験において、うわさはつきものです。正確な情報を知りたいければ直接大学に問い合わせるのが一番です。電話でも良いと思いますが、出願資格などの重要な事項に関しては、返信用封筒を同封して書面で問い合わせるのが正しい方法だと思います。(言った言わない問題の回避)

金沢大学のように、いずれ入試そのものを取りやめると宣言している大学もいくつかあります。カリキュラムの都合で二年次入学への変更も増えており、学士編入の旨みは減っています。優秀な受験生も毎年増えています。(追記：信州大の編入試験が廃止されました)

研究者養成を謳っていても、神戸大のように専用のカリキュラムが組まれていることもあれば、新潟大や千葉大のように一般入学生とさほど変わらない大学もあります。この辺は毎年微妙に変わってくるころなので、募集要項に書いてあることを良く読んでください。自分の場合、面接では臨床志望を貫きましたが、MD-Ph.D コースを前面に出している新潟大にも合格しました。

「合格者に海外経験者が多い」などのうわさが立ったりしますが、学力や人当たりを含めた総合的な実力があれば経歴は関係ないと感じました。「東大卒が多い」というのもごく自然です。子供の頃からコツコツと勉強術を学んでおり、試験のエキスパートが揃っているためです。

受験生の総数に占める薬学・理学・農学系の出身者や院生の割合は確かに多いのですが、同系統の学部生もちらほらいました。一方で文系の人も確実に受かっているの、大学によっては文系枠のようなものもあるのかもしれませんが。多様な人材の確保という観点からすれば否定はできません。

3. 勉強

(3.1 科目配分)

過去問の吟味の後には、得点源となりそうな科目の勉強として「エッセンシャル細胞生物学」の復習による基礎固めと、忘れていた量子力学などの知識の補充から始めました。

シュレーディンガー方程式に井戸型ポテンシャル...理工系なのに頭が悲鳴を上げました。重複日程の筑波大を選んで医科歯科大を受けなかったの、量子力学は新潟大と島根大のみの対策となり、しかも今年は出題がありませんでした。

理工系の数学に関してはある程度自信がありました。しかし医療系ながら統計が苦手、医科歯科大の教養では再々々試まで進んだこともあります。

英語は時間もかかり、伸び具合もよくわからないので並行して少しずつやっていました。編入試験対策とは関係なく、講義科目で出てきた生命系の英単語は随時ノートに書き留めていました。3年くらいやってるとけっこうな量になり、本番では予想以上に役に立ちました。今でも続けています。

(3.2 理数科目)

理数系科目の出題は一部の大学を除き、易化の傾向です。高校の範囲でほぼカバーできる大学が増えました。医科歯科大のように、問題が簡単な割に入試自体の難易度が高いこともあります。逆も然りです。

某予備校では「生命科学と英語だけでは戦えないので、数学・物理・化学もやりましょう」といった内容のアドバイスをしています。近年、受験生の絶対数の増加とともに理系の院試併願者や研究者、薬剤師などの受験生の割合が高くなっています。つまり生命科学と英語だけで乗り切れる「おいしい時代」が終わったことを意味しています。

もちろん少ない科目でもピンポイントで合格すれば良いわけですが、併願校の少なさは合格の可能性を下げるので、大学院入試との併願などの人に比べ、後のない受験生にとってはとてつもないプレッシャーになります。

運も実力のうちだと感じました。もう少し詳しくいえば、きちんとした分析には結果がついてくることが多いということです。週に一度は必ず過去問に目を通しました。一次情報は命です。世の中の試験全てに通じる鉄則でしょう。

傾向が変わることもまた傾向です。また iPS のようにホットな話題が出るのも自然な流れです。的中というのは大きさですが、今年の試験の中で目を通して良かった項目の例として「女性ホルモン」「原子物理の基礎」などが挙げられます。ひと通り勉強していれば誰もが目にする項目ですが、後で聞いてみるとうまく受験生の穴を突いたようでした。

(3.3 生命系科目)

生理学・生化学・解剖学・組織学などの基礎医学科目をひと通り勉強した後だったので、基礎は固まっていたような気がします。記憶は若干あやふやでしたが、試験直前の暗記でカバーできました。復習の大切さを感じました。こういった分野は前年度の秋田大や今年の島根大などに間接的に役立ったような気がします。

合格のために必要な知識量は結果論からすれば非常に少なくても良いのが現実なのですが、出題範囲が明示されていないので、過去問を見ながら自分でしぼるしかありません。

(3.4 小論文)

小論文は自分の書いた文章を客観視する能力さえあれば十分独学で勉強できると思いますが、つい甘く評価してしまう人は友人や予備校、通信添削を利用するのも良いでしょう。

医療系の小論文対策(参考書や講座)は情報の詰め込みに終わることが多いので書くことにも力を入れるべきです。

今年の自分の場合は書く時間をほとんど取ることが出来ず、面接対策と一緒に知識の補充をしたのみで終わってしまいました。しかし以前 Z 会の通信添削を利用していたので、その下地が生きていたのだと思います。

一般に日本人は作文が苦手とされています。子供の頃から読者を想定して文章で考えを表現するようなトレーニングをしていないためです。このためプレゼンなども苦手という人が多いです。編入試験でもプレゼンを課す大学がいくつかあります。学会や商談などで場数を踏んでいる人ならば、この辺は大きなアドバンテージとなるでしょう。

(3.5 TOEFL)

鳥取大と秋田大の採用中止により、TOEFL を課すのは医科歯科大と香川大を残すのみとなりました。お金もかかる上、地方の人は受験の手間が大変です。短期的な得点上昇が望めるとはいえ、コストパフォーマンスは良くないでしょう。さらに日本も iBT 版に移行し Speaking が導入されたので、英語が苦手な人には一層負担が大きくなります。

1ヶ月の準備でCBT(Reading+Listening+Writing)方式で243/300留まりでした。6年前の点数から進歩なしでした。海外組もいる中で、英語でアピールするには若干不足に思えました。過去の香川大などでは100点台の人も合格しているようですが、あくまでおいしかった時代の例外でしょう。

[3.6 勉強のヒント]

試験勉強をする際は「時間をかけて実力を養う期間」と「調整する期間」を分けて考えると良いでしょう。前者は「英文読解」「作文」「数学の思考問題」などを、後者は「英単語・生物学の語句の暗記」「物理学や数学の公式の復習」などを指します。

スポーツと同様、直前期の過ごし方は大事です。本番にピークを持っていくということです。それを目標に年間計画を立てるとスムーズです。特に暗記の多い試験の場合「直前に何をやるか、何を詰め込むか」が合否を分けると言っても過言ではありません。これは歯科医師国試にも当てはまりました。

合格体験記は貴重な情報ですが、十分に吟味し、取捨選択をするべきです。その一方で、「こんな受験生は落ちる」というチェック項目のうち当てはまるものを無視するなど、都合の良い解釈は厳禁です。この文章も、そんな気持ちで読んでください。まとめサイトにも厳しいことが書かれています。

[3.7 時間の確保]

受験生の中には学生・フリーター・働いている人・退職して専念している人など、様々な立場の人がいるかと思えます。しかし「自ら」受験を決意したのなら時間がないことは言い訳になりません。時間は作るものです。

ずらせない仕事や家族の介護などで絶対に時間が確保できないのならば、受験の決意そのものを再検討すべきかと思われれます。入学後にも響いてくるからです。

やむを得ない理由ならばともかく、ある程度予測がついているにも関わらず、仕事や出産などの理由により自らの意志で休学をしている例を各所で見ていてそう思います。資金面も含め、計画第一です。このことはどこの面接でも聞かれるので、具体的な答え(解決法)を用意すべきでしょう。

確保できた時間が短くとも、やるべき内容が濃いなら効率は上がります。効率を上げる方法はここでは省略しますが、参考書の転記やノートの色塗りなどをやるだけでもかなりの時間の浪費を防げます。

[3.8 参考書]

本にはそれぞれ特性があり、得意分野も苦手分野もあるので、自分の場合はつまみ食いしながら、たくさんの本を(読んだというよりは)利用しました。

一般に「教科書や問題集は数をしばって反復...」というのが鉄則ようですが、今回の試験ではそういう方法が賢いとは思えませんでした。これは学士編入試験が一般入試のようにこなれておらず、試験傾向にマッチした本が少ないからだだと思います。その点でしばらくは予備校の優位性が保たれるのかもしれませんが。過信は禁物ですが。

予備校にお金を使わなかった分、疑問を解決するのに必要な本をたくさん買いました。情報を買う、という観点からすれば妥当な投資だったように思います。ただし参考書マニアになることを推奨しているわけではありません。

複合機タイプのプリンターが安くなったので、書き写さずにとんどんコピーしました。自宅にコピー機があるのは便利でした。つまみ食い勉強には最適で、自分にとっては良い投資でした。試験直前、飛行機に持ち込む参考書の数は少ない方が楽です。ScanSnap、ノートPC、iPhoneなど、使えるものはとんどん使うべきです。

使用した本を【資料】として挙げておきます。人によって好みがあるでしょうし、随時新しい本が出版されるので、あくまで参考です。自分は青の二色刷りの本が好きです。性格上、文書のレイアウトやフォントも非常に気になります。本は内容で選ぶべきであり、良くない癖だとは思いますが。

[3.9 情報の価値]

歯学部時代も同じでしたが、医学部に入学すれば教科書代は福沢先生n枚のオーダーですし、高いお金を払わないと受けられない講習会や、お金では買えない知識なんかもあります。情報への投資という概念について考えさせられました。

制作・流通・販促などの様々なコストを含んでいる3,000円ほどの音楽CDや、10万円円で売られているPhotoshopなどについて「材料費からすると高すぎる!ぼったくり!」と感じる人(俗称:原価厨)には上記の概念は理解されないかもしれません。

日頃買っていた医学・歯学書と比べると受験参考書はひと桁安かったです。お金をかけたくない時はオークションや図書館を利用しました。最悪、国会図書館に行けば目当ての本がほとんどあります。

[3.10 長丁場]

一般入試のように試験シーズンが集中しておらず、試験の連続なので常に消化不良でした。「もう少し時間があれば...」というのは言い訳になりません。完璧主義だとなかなか乗り切れない試験なのかもしれません。

ちなみに自分は飽きっぽい性格で、1時間以上机に向かうのが苦手です。当然、大学の座学の講義は苦痛でした。新幹線や飛行機での移動中は、座席が確保されている上に時間が限られていて、むしろ勉強がはかどりました。家ではベッドの上や床で勉強していました。飽きたら大学の図書館や区の図書館、喫茶店などに行きました。

煮詰まったら司法試験の受験書などを読んでみるのも良いでしょう。成川豊彦氏の著書は参考になりました。まったく違う畑の人たちの勉強についての違いや意外な共通点などは良い刺激になります。「1日13時間は当たり前!」「60歳でも受かる!」などの精神論も奮起の材料になります。

4. 面接

[4.1.1 面接試験のヒント]

面接対策の本などを集め、徹底的に分析をしました。何冊か読んでいるとキモがわかってきます。

面接のために本を読むなんて...という考え方もありますが、最低限のマナーや常識などを知る手段としては妥当かと思われまます。そもそも編入試験はマスコミの採用試験やタレントのオーディションではありません。試験官はガチガチの常識人で、突出した個性を求めているわけではないことが多いはずで

むしろ一歩踏み込んで、面接のテクニックにも目を通すようにしました。試験を受けていくうちに、世の中一般の就職試験などに比べて質問は典型的で、十分に準備ができるタイプの試験に思えたからです。

例をひとつ挙げます。自己アピールは面接試験の基本らしいです。限られた時間の中に最大限のアピールを盛り込むことは高度な能力を要求するので、対策には全力を注ぎ込むべきです。一般入試との大きな違いはアピールをするネタも機会も多いことです。学歴・職歴・ボランティア・語学・賞罰・スポーツ...など、最大限活用すると良いでしょう。

[4.1.2 自己アピールで工夫したこと]

- ◇ 30・60・90・180秒のバージョンを用意した。
→ 突然の形式変更にも対応できます。
- ◇ 琉球大にビビり、英語のバージョンも隠し持っていた。
→ 役には立ちませんでした。安心材料にはなりました。
- ◇ 専門用語を極力避けた。
→ 自分の専攻分野を紹介する際などに起こりがちです。聞く側のストレスを最小限に。医療面接(問診)も同様。
- ◇ アピールポイントを3つにしぼり、箇条書きで挙げた。
→ 印象に残すためのひとつの方法です。
- ◇ 時間が短い場合は無駄な言葉を省いた。
→ 特に自己紹介は長くなりがちです。
- ◇ 他人と同じことを言わないように心がけた。
→ 選抜試験は差別化の試験です。落とすのが目的です。
- ◇ 質問の糸口を用意した。
→ これはこちらからの発信の時間の短縮にもなります。
- ◇ 中盤にオチやインパクトのある部分を持ってきた。
→ 相手は教授クラスなので高度な笑いを狙いましょう。
→ 山口大では体育会系の人の方が有利(?)かもしれません。
- ◇ 笑いを取ったあとは一転してシリアスな表情に戻った。
→ 当然笑わない人もいます。
- ◇ 最後は語調を整え、深く頭を下げた。
→ 真摯な姿勢を示します。ここで印象が出来上がります。

[4.1.3 自己アピールで避けたこと]

- ◇ 「緊張しています」「若輩者ではありますが」的な excuse
→ プラスの評価にはなりにくいでしょう。
- ◇ 「頑張ります」「全力を尽くします」などの当たり前な表現
→ 頑張っていない人はいないでしょう。
- ◇ 家族の不幸などに代表される、同情を誘うコメント
→ 飽きられます。興味のある試験官は少ないでしょう。

[4.2 準備したこと]

面接対策に集中したのは山口大の二次試験前のおよそ2週間です。おかげで学科の勉強スケジュールが大幅に崩れましたが、それまでほとんど面接の準備をしていなかったのが仕方がなかったと思います。ここでのふんばりが最後の新潟大三次試験まで効いた気がします。

収集したネタは以下の通りよく見かけるもので、印刷するとA4で500枚程度になりました。時間の節約のため、抜粋せずに線を引いて読みました。「オンデマンドの」「オーダーメイドの」「オンリーワンの」面接対策本と思えば厚みなど気にならず、モチベーションも高まりました。

- ・ 少子高齢化
- ・ いじめ
- ・ 科学のあり方と倫理
- ・ 老人の孤独死
- ・ 死亡率と死亡原因の変遷
- ・ 地域医療と僻地医療
- ・ 小児科医と産科医の減少
- ・ 世界の中での日本の医療
- ・ 医療経済学的な問題の解決策
- ・ リーダーシップとチーム医療
- ・ 医療事故と医療過誤
- ・ 研修医制度の問題
- ・ 救急災害医療とトリアージ
- ・ 大学の法人化
- ・ 学部教育のあり方
- ・ IT (ICT) 社会とデジタルデバイド
- ・ 各自治体ごとの医療の現状
- ・ 観光スポット・産業・名産品・出身著名人 ...など

最近ではWikiなども充実しており、昔のように図書館にこもって資料を書き写したりせずにコンパクトに最新の情報を学ぶことができます。(信頼度に疑問のあるWikiも使い次第です)

情報を得るだけでなく、自分なりの解釈と意見を持てるかどうかが重要です。解釈や意見の幅が狭い(ありきたりな回答が返ってきそうな)話題はそれほど聞かれないでしょう。

[4.3 雑感]

テクニックではないのですが、試験を受けていて気になったことがあります。話に酔わないことです。焦って医療用語を連発する光景を何度も目にしました。

面接は収集した知識の披露の場ではありません。最低限の知識は必要ですが、受験生がどのような考えを持っているかが問われます。どうしても言及したいことがあれば、先に述べたように質問の糸口を用意すると良いでしょう。面接の流れを「作っていく」ことは定番のテクニックです。集団面接などはこういったことを気付かせてくれる点で役立ちました。まさに場数を踏んで伸びていけた気がします。

あちこちで討論会などを行っているようですが、準備のために学科試験対策を疎かにすることはもちろん、馴れ合いの場にだけはしないことです。自己満足は何も産みません。参加する人数が少ないことが多いようなので、参加するメンバーによりその回ごとの雰囲気は変わってくると思います。良い仲間と巡り合えれば効果も上がることでしょう。

各地の試験会場で山口組2006のメンバーに遭遇しました。3回の飲み会を経て、この原稿を書いている時点で合格率は8割を超えているようです。(他大合格も含む)

一般入試ではセンター試験も含めた科目の多さに、編入試験でも一部の大学の科目の多さに挫折しかけてしまいそうですが、合格してからも定期試験・CBT・OSCE・卒業試験・国試が待っています。量や科目の多さに圧倒されない気持ちが必要です。司法試験受験生の参考書を見せてもらってびっくりしたこともあります。

5. 最後に

合格通知を受け取った当初は父親に「喜んでいるのか？」と聞かれるほど実感がわきませんでした。この文章を書いているうちに様々なことがよみがえってきました。辛かった分、感動もひとしおです。同じ道を志すみなさんの幸運をお祈りします。

special thanks to ...

- ・ Yahoo! ML [medschool]
- ・ 2ch 学士編入スレッド
- ・ 山口組2006 のみなさん
- ・ mixi コミュニティ数種

他、各種ブログやBBSなど

written by 湯島一郎 (仮名)
歯科医師・医師

県立新潟高校卒業
早稲田大学理工学部土木工学科中退
東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
新潟大学医学部医学科三年次編入学
新潟大学医学部医学科卒業

誤植や不適切な表現等のご指摘・ご意見などは、
ekam (アット) hyper.cx までお願いします。

再配布は結構ですが、転載や抜粋等のご遠慮下さい。

【資料 1】勉強に使った本

反復したものは少ないです。これらの他、計算ノートや資料のコピー、インターネットからの情報も含めると膨大な量になりました。しかし医学部入学後の勉強量に比べれば大したことではないはずですよ。(そう思わないとやってられません)

〔生物〕

シグマ 理解しやすい生物 I・II(とりあえず)
生物 IB・II「要点」超効率整理 29(コンパクト)
フォトサイエンス生物図録(お買い得)
大森の生物論述問題の解き方(論述はバカにできない)
大森の生物遺伝・計算・グラフ問題の解き方
大森徹の生物計算・グラフ問題の解法
大森徹の生物遺伝問題の解法(薄くて良い)
好きになる生物学(いまいち)
好きになる分子生物学(ECBの抜粋的な感じ)
エッセンシャル細胞生物学(ECB) + The Cell (で補足)
生命科学(羊土社)(これはいまいち、後に類似本が出た)
大学 1・2年生のためのすぐわかる生物
よくわかる高校生物の基本と仕組み
理系なら知っておきたい 生物の基本ノート(人気)
NEW 靴子生物講義の実況中継
これだけは知っておきたい図解分子生物学(深い)
Quizでわかる生物学(楽しい)
ヒト遺伝子のしくみ
生化学・分子生物学演習(緩急激しい)
駿台 理系標準問題集 生物(高速で消化)
河合塾 医学部攻略の生物(割と難しい)
センター試験赤本 生物(結局で読めなかった)

植物や生態系を除く高校生物の範囲は基本らしいので、ひと通り網羅する必要がありました。自分は一般入試の際に生物を使わなかったので一から始めました。

簡単な問題を解くことから始め、参考書を読んで知識を補いました。問題集は良質のものが豊富で助かりました。参考書の暗記から始めると、項目の多さから挫折することが多いようです。

その後勉強の軸にしたのは「エッセンシャル細胞生物学」と「フォトサイエンス生物図録」でしょうか。「生物の基本ノート」は簡単な本ですが、読んでいる人が多いので目を通しておくと良いでしょう。

ちなみにエッセンシャル細胞生物学は学士編入試験ではバイブル扱いされていますが、あくまでもエッセンシャル版なので網羅性はありません。例えば遺伝や免疫の分野はほとんど省略されています。購入前であれば親本である「細胞の分子生物学」を検討してみるのも良いかと思われます。自分は原著の The Cell を部分的に利用しました。

原著で勉強するのは手間かもしれませんが、この本の場合は絵が多かったので理解は早かったです。過去の千葉大では顕微鏡の文章がそのまま出題されていました。

〔生理・生化ほか〕

トートラ人体解剖生理学(わかりやすい、しかし浅い)
からだのしくみ大全(おもしろい)
生理学の基本としくみ(部分的に使える)
好きになる生理学(洗練されていないが、割と良い)
スタンダード生理学
生理学テキスト
カラー生理学
コア生理学
シンプル生化学(悪くないが、わかりやすくない)
コア生化学
Lippincott's Biochemistry(絵だけ見た)
免疫生物学(編入試験には重い)
好きになる免疫学(定番)
初学者のための免疫学問答(割と詳しい)
医系免疫学(読みやすい)
免疫学最新イラストレイテッド
イラスト解剖学(入学後も使える)
フィッツジェラルド人体発生学
ブラック微生物学(わかりやすい)
微生物学ポイント 250(まとまっている)
新薬理学(あんちょこ)
チャート内科 1~5(絶版・STEPに置き換わった)

ほとんどが歯学部 of 定期試験用です。生物・生命系でない受験生にとっては、どこまで踏み込んで良いかわからないと思います。信じられるのは過去問です。過去問を徹底的に分析し、必要なこと・聞かれそうなことを自分で判断することです。他人の「出そうだ」という情報をアテに勉強しているとキリがありません。

生物・生命系出身の受験生も自分の専門や得意分野にとらわれず、過去問をベースに勉強すると良いと思います。予備校で難しいテキストをやっていたり、思い入れの強い分野に接するとつい深く勉強してしまいます。随時過去問を眺め、軌道修正をすることです。自分は免疫学での出題と最新知見との食い違いに悩んだり、歯科医師国試の科目との重複で混乱したりしました。

手元にあった医科歯科大の一般入試の過去問 20 年分を解きました。総合問題時代を含む理科に関してはなかなか骨のある問題が多く、編入対策としても勉強になりました。

シンプルシリーズなどの薄い本は、バックグラウンドのない人には逆に難しいのかもしれませんが。想像でカバーできない場合や調べ物の手間が増えそうな場合は注意です。

医科歯科大・弘前大の記述問題対策として、実際に答案例を書いたりしました。時間が無い場合は、盛り込むべきキーワードだけを書き留めておいても良いでしょう。

人気の「分子生物学の講義中継」シリーズをやってみたかったのですが、手持ちの教材の消化で手いっぱい結局買えませんでした。やることのない場合や予備校の知識の補充目的に買ってみたいかがでしょうか。

〔追記〕入学後、「分子生物学の講義中継」を買って定期試験の勉強に使っています。周りにも使っている人が多く、すっかりメジャーな参考書になったようです。

羊土社の「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」は医科歯科大教養部の生物学の講義の雰囲気を知る教材として最適です。webで公開されているものとほぼ同じです。著者の先生には教養時代に生物学と発生学を教わりました。実際の授業では「エッセンシャル細胞生物学」と親本を併用しています。受験する人は参考にしてみると良いでしょう。

〔化学〕

試験に強くなる化学 I・II の考え方解き方(普通の問題集)
理系なら知っておきたい 化学の基本ノート [物理化学編]
理系なら知っておきたい 化学の基本ノート [有機化学編]
化学通論(大学で買われた)
バイオサイエンスのための物理化学入門(読み物)
よくわかる物理化学の基本と仕組み(部分的に使える)
マグロウヒル大学演習 一般化学(大学で買われた)
ハート有機化学(大学で買われた)
河合塾 化学精説(絶版、濃厚だけどすっきり)
化学の新研究(高校生にはちょっと難しい...か?)

高校の範囲は問題ありませんでしたが、物理化学などの大学の範囲は非常に苦手でした。基礎の基礎から始め、問題集をひたすら解きました。物理化学はガッチリおさえておきたいです。全体的な傾向から、無機化学は省略しました。有機化学については理系系や薬学系の試験ではないので、細かい反応論などを除けば十分消化できる内容だと思います。

〔物理〕

基礎演習物理学 [I][II](よくまとまっている)
詳解力学演習
センター試験赤本 物理(結局やらなかった)
河合塾 名問の森物理(上下)(定番)
河合塾 物理教室(定番)
理論物理への道標(上下)
裳華房 物理学
理系なら知っておきたい基本ノート 電磁気学
コロナ社 電磁気学ノート
単位が取れる電磁気学ノート(有名だが若干読みにくい)
絵でわかる量子力学
Aha! 量子力学がわかった

大学入試では御法度だった微積分を思う存分使えるのが新鮮でした。特に力学は暗記事項が減ります。剛体・流体力学については若干の知識の補充をしました。

「基礎演習物理学」は院試や公務員試験などの受験生に人気のある網羅系の問題集です。網羅している割には薄いので、まずこれを終えると良いでしょう。欠点はたまにある誤植と不親切な解答です。もっとも典型問題の一覧として他書を併用すれば腹も立ちません。また、原子物理の割合がかなり多いので出そうな大学以外はほどほどにすべきです。

電磁気学・熱力学はどちらも完成された学問ですが、深入りすると泥沼です。マクスウェルの方程式などはほどほどにしておくべきでしょう。

波動・量子力学は出題が限られています。自分の場合は出たらあきらめようと基本問題中心にやりました。ただし、高校範囲の波動の問題は完璧にしておいたつもりです。島根大の基礎的な波動の問題は意外に正答率が低そうでした。前年度の愛媛大ではレンズが穴になっていました。

ひと通りの公式の理解など、一度ヤマを乗り越えれば安定した得点源になります。文系の人でも克服した例をいくつか見えています。苦手な人は王道の「橋元」系からやってみると良いでしょう。(いきなりこれから入るとありがたいがわからないかもしれません)

〔数学〕

大学への数学 1対1の演習(定番)
マスター・オブ・整数(よくまとまっている)
マスター・オブ・場合の数(こういう本はなかなかない)
微分積分学の基礎
詳解演習 微分積分
新統計入門
初等統計学
メディカル・コメディカルのための統計学(浅い)
単位が取れる線形代数ノート
線形代数キャンパス・ゼミ
大学入試の抜け道数学
合格王のミラクル数学(絶版)
大学入試数学のルーツ

高校生の頃は苦手にしていましたが、高校範囲は一般入試の際に反復することで十分克服できました。その後は「大学への数学」とZ会を解き続け、効率的な解法を追求しました。勉強した分だけ模試での成績が上がりました。

微積分と線形代数は理工学部時代にやっていたので、今回は整数と統計を補強しました。数学に関しては近年多くの大学で易化しているの、勉強計画で悩みます。

〔面接〕

代ゼミ 医学部面接ノート
面接の技術 杉村太郎
やさしいグループ面接
図解まるわかり時事用語

よくある面接対策の本に加えて、一般常識を補充しました。就職関係の本や英語面接の本も読みましたが、客観的に見て学士編入学の面接は安直です。少なくとも面接官は持ち回りで選ばれた教授達であり、人事に関するエキスパートではありません。(ここが企業面接と違います)

〔小論文〕

- 実践！問題解決法
- 論文ってどんなもんだい
- 大野 α 医系小論文
- 読むだけ小論文～医歯薬看護系
- 新「型」書き小論文～医歯薬看護系
- 読み書き新聞小論文
- 今からできる小論文〔医歯薬看護系〕

過去に使ったZ会旬報も併用しました。未経験の人はひたすら書いてみることです。そして客観的に、批判的に読み返します。つい甘くなってしまう場合はお金を払って何らかの添削サービスを利用するのも良いでしょう。

一般入試用のアンチョコ本を使っている人が多いのですが、いい年をして若者と同じ意見しか言えないと面接でかなりバカにされます。自分のバックグラウンドや現実の問題、情勢とも照らし合わせ、一歩踏み込んだ勉強をすべきです。

〔英語〕

- DUO 2.0 (+CD)
- ALL IN ONE 3rd (+CD)
- Z会 医歯薬系の英語
- 言いたいことがすぐに見つかる英会話辞典
- Z会ディスコースマーカー英文読解
- 戦略的英語プレゼンテーション (+CD)
- プレゼン英語必勝の法則 (+CD)
- 採用される英語面接 (+CD)
- 毎年でる 英作文
- バイオで英語
- ワーズワード

勉強しても点に結びつきにくい科目です。弘前大は一般入試に似た空所補充を出します。これにとどまらず、やはり文法をおさえることは基本だと思いました。同様に絶対的な単語数と語彙力は必須です。

基礎ができている人はどんだん文を読むことです。精読と正確な和訳に加え、編入試験では長文(多文)に耐える力が必要です。高速で読んで正誤問題や要約問題にてきぱき答えられる能力です。一度読んでしまうと内容がわかってしまうので専用の教材を用意するのもひとつの方法です。

精読用の場合はちょっと難しいかな、というくらいのレベルの文章を7割程度理解するような勉強法を提案します。簡単すぎても難しすぎても身につけません。

オンラインで膨大な文献を検索し、的確な情報を得ることは医学部入学後にも必須の能力といえます。日頃生命科学系の論文を読んでいない人は Nature や Scientific American などを読めば雰囲気がつかめます。

既製品の単語帳に加え、読解や模試で間違えたり気になったりした単語はアドレナリンとの関わりで記憶に残りやすいので、書き留めておく役立ちます。

語学は勉強法も参考書も多彩でヒントも多いですが、過去問を常に意識して目標を見失わないことが肝要だと思います。精読だけでは問題は解けません。

〔TOEFL〕

- ETS criterion (web)
- Barron's TOEFL 対策 (+CD)
- Barron's How to Prepare for the TOEFL Essay
- Delta's Key to the TOEFL Test (CD-ROM)
- TOEFL TEST 速修ライティング・対策徹底リスニング
- TOEFL TEST 英文法徹底対策

参考書が豊富で問題も良く練られているので、正しく勉強すれば誰でも確実な得点アップが望めると言われています。教材が必要十分に揃えば、約2か月である程度のレベルに達するそうです。

基礎ができている人は文法問題のパターンなど、TOEFL 独特のテクニックをコツコツ習得していくと良いでしょう。容易に点が取れるようになります。

Writing はいわゆる Essay(小論文)であり、論理的な構成能力に加えてタイピング速度が要求されます。文章の論理構成を学ぶには非常に良い科目だと思いました。

「ETS criterion」を利用すればインターネットで答案を添削してもらえます。採点してくれるのはロボット(プログラム)なのですが、表現の反復や論理構成などを的確に指摘してくれます。値段は3,000円くらいだったと思います。自分は大学の院生向けの講座に参加し、IDを取得しました。

「Barron's How to Prepare...」は文例が豊富です。満点答案っぽくないところがまたリアルで面白いです。

〔その他〕

subnote 公衆衛生学

鳥取大・山口大対策として使いました。知ってるだけで得点できるありがたい分野です。さらっと読み流す程度にして、深入りしないことが大事です。ちょっとだけ面接対策にもなります。筑波大では特異度・感度の計算が出ました。(誘導があったので知らなくても解けますが)

【資料 2】 2007 年度入試の実況

試験直後に Yahoo! ML (medschool) に投稿したものをベースにしています。

勉強が消化不良のまま最初の試験日を迎えました。羽田空港 → 山口宇部空港 → 羽田空港 → 青森空港 → 羽田空港の強行スケジュールでした。

航空券とホテル代を含むパック旅行ならどこの都市へも 2 万円台で行けます。シーズンにより高速バスよりも安いことがあります。初心者にはじゃらんの検索がおすすめです。

山口大一次試験
2006 年 6 月 24 日(土)

- ・ 受験者数：380 人 (予想)
- ・ 一次試験合格者数：40 人
- ・ 最終合格者数：10 人
- ・ 問題用紙：回収

※ 学科試験(生命科学)の成績上位者約 100 人に対してのみ一次試験の小論文の採点をする

(生命科学)

5 択の客観式。恐れていた植物が出ました。順不同で概要のみ書き出します。詳細は他のサイトでどうぞ。

- ・ ミトコンドリア
- ・ DNA・RNA
- ・ グルコースと好気呼吸
- ・ 解糖系・クエン酸回路・電子伝達系で発生する ATP 量
- ・ チミンを標識する培地
- ・ 裸子植物が出現した時代
- ・ ミカエリスメンテン
- ・ クローンを作るのに適していない細胞
- ・ 医学・生物学の歴史～人名と功績
- ・ 臍臓を抜き取った犬
- ・ 大脳皮質を損傷した猫
- ・ バンプレッシンの働き
- ・ 酵素の存在場所
- ・ 脳回に存在するもの
- ・ タンパク質合成に関わらないもの
- ・ 月経周期とホルモン
- ・ 糖を分解する酵素
- ・ 抗原提示・マクロファージ・T 細胞
- ・ 脳下垂体ホルモン
- ・ 液性免疫
- ・ 副交感神経の伝達物質
- ・ 植物の気孔を開かせるホルモン
- ・ 植物の屈性
- ・ 植物が水を吸収する原因
- ・ バナナを成熟させる効果があるホルモン
- ・ 目の構造

- ・ 瞳孔の収縮
- ・ 逆 L 型の生存曲線を描く生物
- ・ ラットにチロキシンを大量投与
- ・ 末梢の副交感神経から放出されるホルモン
- ・ DNA の長さの計算
- ・ ベクター・プラスミド・バクテリオファージ
- ・ クローンへの提供核
- ・ 食物連鎖
- ・ 腎尿細管で再吸収されないもの
- ・ 熱帯雨林の減少による影響ではないもの
- ・ 窒素固定をおこなわないもの
- ・ HIV
- ・ 紫外線
- ・ 骨・骨基質
- ・ 外胚葉・中胚葉由来の構造
- ・ 感覚器の働き(耳周辺)
- ・ 筋肉の働き
- ・ 血液凝固因子
- ・ 夜行性・昼行性動物
- ・ 顕微鏡用標本(切片)

[小論文]

実質は英語の試験です。問題文が非常に長かったです。A4 で 10 枚くらい。大問 2 つ。語注なし。内容は高校レベル。

[1] WHO のタバコに関する報告。
要点を 5 つ挙げる。それぞれ 200 字以内。

要点は簡単につかめるのですが、5 つにしぼるのが難しかったように思います。

[2] 小児に対する遺伝子診断について。
1. 小児の遺伝子診断をする際のガイドライン
2. 既存の遺伝子カウンセリングの問題点
3. 小児の遺伝子診断に関して意見を 200 字以内で述べる

よくある論調で適当にだらだら書いてしまいました。

弘前大一次試験
2006.6/25(土)

- ・ 受験者数：約 400 人(予想)
- ・ 一次試験合格者数：60 人
- ・ 問題用紙：回収

弘前市内のホテルが満室で、青森駅前のホテルに泊まり、当日朝に電車で会場に向かいました。十分間に合いました。同じような人がけっこういました。KALS の人が多かったように思います。

〔英語〕

- [1] 単文の適語選択
- [2] A4 半分ほどの文章、和訳など
- [3] 文章中で適語選択と前置詞の補充
- [4] 学術誌の投稿規定に関する正誤問題

〔基礎自然科学〕

物理...滑車と物体・アトウッドの機械の2問。ともに答えのみ答えれば良い。高校の教科書の例題レベル。

化学...計算問題硫酸銅水溶液、気体の分子量、電気分解、正誤問題(C7でOHが2つの構造の数は9である、など)

生物...選択穴埋め(TCA回路、窒素の固定)、環状DNAと制限酵素

〔小論文〕

- 答案用紙は800字詰め
W.オスラーの格言中のvariabilityという語について
(1) 具体例...400字
(2) 自分で挙げたvariabilityをもたらしたもの...400字

山口大二次試験

2006.7/28(金)~30(日) (3日間)

試験前日の朝から突然の腹痛におそわれ、腰痛も再発し、「飛行機に乗れるかな...」とかなり不安になりましたが、東邦大の羽田空港診療所で診てもらおうと家を出ました。

診断はよくある腸炎。整腸剤で様子を見ることに。痛みは強いものの、自分としては深刻な病気でないことでむしろ安心して飛行機に乗りました。結局3日間痛みはおさまりませんでした。体験授業で消化器内科の先生に顔を覚えていただいたり、周りの受験生にも「腹痛の人」というイメージで覚えてもらったりしました。何がプラスになるかわからないものです。

学科合格40人→辞退5人(香川大・滋賀大・大分大)→35人
→辞退1人(医科歯科大)34人→最終合格10人

- ・前年までの泊まり込みの試験ではなくなった
- ・資料等は持ち帰り可能

- ◇カリキュラム説明
- ◇体験授業
- ◇病院見学
- ◇自己アピール
- ◇個人でプレゼン
- ◇集団討論
- ◇個人面接

荷物置き場の配慮があるので、スーツケースなどを持ってきても大丈夫です。病院見学までは採点対象外であり、歩き回ると暑いので軽装がおすすめです。男性は半袖シャツにネクタイなどが良いのでしょうか。

〔カリキュラム説明〕

講義室で大学案内などの資料が配られ、カリキュラム等に関するスライドを見ながら話を聞いただけです。

〔体験授業〕

スモールグループディスカッションなるスタイルでした。与えられた資料についてグループ内で話し合った後に質疑応答でした。あくまで採点対象外です。

〔病院見学〕

5~6人のグループに分かれて病院内をぐるぐる動きます。

〔自己アピール〕

- ・30秒で自己アピール
- ・4人が横の椅子で待機
- ・流れ作業的に段によってスピーチ
- ・終了チャイムあり
- ・試験官は12人
(おそらくこの後の第1~第3面接室の4人×3)

第1~第3面接室(プレゼン・討論・個人面接)があり、各自が2日間で全てを回る。全ての試験官が全ての受験生を見ることになる。

〔プレゼン〕

- ・試験官:4人
- ・時間:準備20分・発表7分・質問3分

投影用A4紙1枚・下書き用A4紙2枚・鉛筆(黒・赤)・消しゴムが用意されていた。

ビジュアルプレゼンターで紙を投影。投影するスクリーンはあまり大きくありません。受験生用の椅子がある部屋とない部屋がありました。前年度に絵だけのスライドで合格している人がいた影響で、みんな絵を多用していた気がしました。

- 前半組「自分が挫折をした体験」
- 後半組「家族の絆を最も感じた体験」

自分は後半組で、家庭内の嫁姑問題と、母親と祖父の死について話しました。質問の内容はプレゼンとは関係ありませんでした。

「論点ずれてない？体験だよ。」
「今まで社会に出てないんだねえ。」
「お金はどうやってまかなっているんですか。」
「生まれはどこですか。」

〔集団討論〕

・試験官：4人
・時間：準備 80分・発表 10分・討論 30分

ハの字型の机とホワイトボード&マグネット。受験生 5対5
または 6対6。5対5の組は試験官が司会を務めました。

多めの模造紙・鉛筆・消しゴム・サインペン・マジックペン
(黒・赤・青)・メモ用紙・大型定規・はさみ・イミダスが用意
されていました。材料の使い方は自由とのことでした。

一方が「躰、教育における体罰」を肯定
他方が「メディカルスクール化」を否定

準備の時間には自分のグループの発表内容と資料作成、反論
への対策、相手の発表に対する質問の用意を含みます。討論
は 30分で打ち切り。厳密なディベートではない様子。

試験官は途中、試験の進行方法や時間のチェックでよそ見を
していることが多かったです。資料作成中、1~2人が周りを
ウロウロしていました。発言の内容やタイミングを見ながら写真入りの表に何かを記入していました。討論の勝ち
負けはあまり関係ないようでしたが、発言の内容は気にして
いました。発言の回数は合格には関係ないようです。

(面接を乗り切る工夫)

- ・打ち負かしたりすることが重要な試験ではないので、事前にグループ内で打ち合わせをしておくやり方もある。
- ・司会に立候補する人を用意しておく。
- ・長そうな意見は何人かで連携(分散)して間を持たせる。
- ・感情的にならない。発言は面接官に聞こえるように。
- ・ストッパーになる意見を言わないようにする。
- ・タイムキーパーを用意する。

〔個人面接〕

・試験官：4人
・時間：20分

細かい質問のやりとりが多く、若干戸惑いました。自分もつ
いつい早口になってしまいました。お客様面接といわれた
傾向と違い、厳しめの質問や圧迫もあったそうです。

「昨日の試験はどうでしたか。」
「山口に来たことはありますか。」
「山口のイメージは？」
「山口でやっていけるんですか。」
「山口は地元じゃないですけどいいんですか。」
「山口で一生を過ごす覚悟があるんですか。」
「あなたの思う地域医療とは何ですか。」
「全人的に診るとはどういう意味ですか。」

「プライマリーケアとは何ですか。」
「何科に進みたいですか。」
「やりたいのは臨床ですか、基礎ですか。」
「どんな医師になりたいですか。」
「来年入学したとして、どんな自分を想像しますか。」
「入学後はどうやってお金を作るのですか。」
「勉強したいんですか、働きたいんですか。」
「何で土木工学なんですか。」
「何で中退したんですか。好きなら卒業すればいいじゃない
ですか。」
「卒業はできそうですか。」
「歯科に飽きたから医学部に入りたいのですか。」
「歯科医師国家試験は受かりそうですか。」
「今後も学士編入試験を受け続けるのですか。」
「国家試験と平行するのは大変じゃないですか。」
「歯科医師免許が取れなかったらどうしますか。」
「相互乗り入れ編入とは何ですか。」
「歯科と医科とどちらがメインですか。」
「現在、お金はどうやってまかなっているんですか。」
「在宅バイトとはどんなものですか。」

何が評価されているかわからないことに、みんなストレスが
増大してる雰囲気でした。空き時間は情報交換を含むお
しゃべりに花が咲き、試験後はやってられない組が連日飲ん
でいました。後に「山口組 2006」に発展しました。

最終日の終わりに先生方と過去の合格者を交えての懇親会
がありました。「山口大は学士卒業生を2回出しているが、ひ
とりも山口に残ってない。」「学士試験をやめようかな。阪大
もやめたがってる。」などの情報が得られました。

筑波大二次試験
2006.7/4(火)~5(水)

- ・受験者数：142人(受験番号から推定)
- ・面接は有資格者全員が受験
- ・医科歯科大二次と重複
- ・2日間で合否が決まる
- ・去年は54人受験、6人合格(公式発表)
- ・問題用紙：回収

〔英語〕

短い英文読解が2問、英問~英答・和訳・タイトル命名など

「チェルノブイリ事故とその影響」
「アスベストと健康被害」

〔数学〕

解答用紙 1問あたり B4 縦 1枚。

- [1] log を含む不等式の証明
- [2] 2つの飛行機が最も接近するときの距離(ベクトル)
- [3] 三角形 ABC について $\tan A, \tan B, \tan C$ がともに整数
- [4] 遺伝子の検査と条件付き確率(特異度・感度の定義が与えられている)

[化学] _____

- [1] 沸点上昇・凝固点降下
- [2] 構造式の決定... $C_8H_9NO_2$ みたいなものが2つ。
(アセトアミノフェン・フェナセチン) 誘導式で空欄の構造式を答えていく。
- [3] 有機溶媒による分離

[1][3]は式が与えられており、それを使って計算するだけ。事前知識は不要。

[物理] _____

理科は二科目選択で、物理を選択しなかったので詳細を覚えていません。

- ◇ 質量分析器
- ◇ 地球の中のトンネルを通る物体

[生物] _____

よく覚えていないので羅列します。

- ◇ 選択穴埋め
アベリー、グリフィス、ビードル、テータム、ハーシー、チェイスなど
- ◇ 選択穴埋め
ヒト・大腸菌のゲノムの塩基対の数
ホメオボックスの塩基対の数

- ◇ 語句を使って記述
原核生物と真核生物の mRNA の違い
→ シストロン、キャップ構造、ポリ A 鎖、スプライシング

- ◇ 選択
感覚器と刺激の種類のみ組み合わせ
苦みを感じた～味蕾～化学刺激など

- ◇ 選択
脳の各部の名称と働きのみ組み合わせ
瞳孔の調節～中脳など

- ◇ 実験考察
未分化神経細胞が突起を伸ばし軸索を成して極性を持つまで
実験 1：十分離して培養してみた
実験 2：突起を切ってみた
ラストに 150 字の記述

[面接] _____

- ・ 例年試験官 3 人 → 2 人に
- ・ 係の人が準備に忙しそうだった
- ・ やっつけ仕事風で恐らく合否には影響がない

- 「志望の動機」
- 「歯学部卒は多いよ」
- 「茨城の田舎を知っているか」
- 「何科に進みたいか」

弘前大二次試験 _____
2006.8/27(土)

- ・ 問題用紙：回収

試験室は冷房が効いておらず、青森とはいえ非常に暑かったです。一次試験同様、KALS の人が多かったです。

[英語] _____

- [1] たばことアルコールについて。
英答あり。解答スペースは A4 まるまる 1 枚。

- [2] 磁気と微生物。
意味が合うように語句を選ぶ。そして前置詞の穴埋め。

- [3] 貧困国におけるマラリア対策の DDT 利用。
下線部と同じ意味の語句を選ぶ。適切な題名を選ぶ。
[2][3]はまるで一般入試の問題のようでしたが、あまりこなれていないので解きにくいです。全体で 7 割弱くらいの出来でしょうか。

[生命科学] _____

- [1] 例年通りの 3~4 行記述が 8 個

活性酸素、発がん物質、内分泌かく乱化学物質、原核生物と真核生物、細胞骨格、ヘリコバクターピロリ、コラーゲン、骨髄移植

- [2] 免疫と二次応答について記述：グラフが与えられた

一次応答のしくみ、二次応答のしくみ、別の物質でも二次応答らしき反応があった原因

- [3] オリゴペプチドからプローブを設計する：コドン表が与えられた

アニーリングと温度についての計算問題。式は与えられているので事前知識は不要。

- [4] 蛍光顕微鏡

蛍光物質と発光物質の定義。蛍光顕微鏡の原理と光の波長のグラフが示された。励起光と蛍光についての小記述がおよそ 6 問。

[1]は例年より大幅に易化のため落とせません。記述対策が活きました。傾向としては医科歯科大の生物学の問題にも似ています。[1][2]は無難に完答。しかし[3]については訂正の意味がつかみづらく、意見が分かれそうです。[4]は何を答えるべきか迷いましたが、物理学的な定義のようなものを書き、ルシフェリンなどについても触れました。白紙の人がかなり目立ちました。

〔集団面接〕 _____

5つの面接室で同時に5人ずつ、30分の面接を受けました。5人一列に並ぶので、真ん中の人は順番が入れ替わっても良くも悪くも前の人の意見を参考にできます。

あちこちに書かれている先人たちのアドバイス通り、みなさん短めの答えを用意していたようです。(過去に話が長くて叱られたり止められたりしたこともあったそうです)

集団面接ということで例年、和やか＆無難な路線でしたが、自分が受けた部屋ではけっこう突っ込まれた質問もありました。しかし、細かい言動というより人間性のようなものを見ていた雰囲気でした。

「受験するに至った経緯と、入ってから何をしたいかを話して下さい。」

→ 志望動機と将来像の折衷の質問でした。

「自分のバックグラウンドをどう活かしますか。」

→ 傾向通り、具体的に聞かれました。

「医療過誤の原因は何だと思えますか。」

「福島県の産婦人科医の逮捕をどう思えますか。」

島根大一次試験
2006.9/1(金)

・ 問題用紙：持ち帰り可能

〔英語〕 _____

[1] 「DNA鑑定・犯罪・法律の関連」
50～100字の下線部和訳

[2] 「社会的地位・豊かさ・教育水準と喫煙による死亡率との関連と、その調査方法の限界」
100字の下線部和訳、200字以内の日本語説明

[3] 高血圧に関する文章について下線部説明、「高血圧のガイドラインに求められる事項と、それを遂行するには何が必要かを簡潔に述べなさい。」

[4] 英作文

◇ (中略) あなたは島根大医学部で学ぶ医学生です...夏休みを利用して...救急医療に関する学生向けのセミナーに参加したいと考えています...外国からの参加が可能か問い合わせようと思います...教授に宛てた英文の手紙を作りなさい。

◇ (中略) 2種類の薬剤を高血圧のモデル動物に投与し血圧に対する効果を調べた実験の結果...図に示された結果を英語で説明しなさい。

読む量も書く量も多かったです。手が痛くなりました。自分は半分くらい埋めて時間切れでした。

〔自然科学総合〕 _____

[1] 穴埋め...ポーアの理論・波動の式

いずれも高校レベルで、着実に得点できます。会場では難しい参考書を開いている人も多かったですが、実際は有名な「橋元流...」で十分乗り切れる内容でした。完答しました。

[2] 有機化学に関する小問が6個...アスピリン、構造と沸点、脂肪酸、光学異性体など。

簡単な問題に油断してしまい、後で確認したら細かいところでミスを連発しました。やはり高校レベルでした。

[3] 「膝を曲げる」運動について小問が3個。仕組み、片方にしか曲がらない理由、病気との関連についての自由記述。

独特の出題なので差がついたと思います。筋肉や骨の名称から組織学レベルに掘り下げ、生理学や生化学的な理屈を書きました。記述量はB4まるまる一枚で、図も多用しました。

[4] 遺伝に関する穴埋め。高校レベルでした。

鳥取大一次試験 _____
2006.9/9(土)

・ 受験者数：276人(受験番号から推測・空席あり)
・ 最終合格者：5人(今回は7人だった)
・ マーク式5択40問～生物・化学・物理・数学の順に配置
・ 問題用紙：回収

〔生物〕 _____

- ◇ 原核生物に含まれるもの...リボソーム
- ◇ N糖鎖を付加する場所...小胞体・ゴルジ体・リソソーム
- ◇ 分泌経路...小胞体 → ゴルジ体 → 細胞膜と融合・分泌顆粒
- ◇ 環状DNA...プラスミド
- ◇ 正誤問題：mRNAはスプライシングを受ける、など
- ◇ 解糖系で作られるアミノ酸...ロイシン・セリン・リシン・アルギニン・グルタミン
- ◇ 筋肉の収縮に関係しないもの...メラトニン
- ◇ 刷り込みはどれにあたるか...走性・学習・本能
- ◇ S期とは何か
- ◇ 細胞あたりDNA量が最も少ないのはどれか

...G1・G2・S・M 前期・M 後期

- ◇ アレルギーに関わるのは...IgE
- ◇ 拒絶反応は...キラー T 細胞
- ◇ 脂溶性でないビタミンは...ビタミンC
- ◇ 細胞質を染めるのは...エオジン・酢酸カーミン・ズダン・ヤヌスグリーン
- ◇ 神経細胞と神経細胞の間の連絡...シナプス
- ◇ オルニチン回路に関係ないもの...選択肢失念
- ◇ イノシン酸 (IMP) のプリン塩基...アデニン・グアニン
- ◇ 開始コドン...ATG
- ◇ 絶食時に肝臓がグルコースを作るために利用する血中の成分...アラニン・プリン体・ケトン体・遊離脂肪酸
- ◇ 脂肪組織から利用組織へ行く時の形態...VLDL・HDL・遊離脂肪酸・キロミクロン・血中アルブミンと結合
- ◇ 下垂体後葉から出るホルモン...抗利尿ホルモン
- ◇ マクロファージの由来...単球
- ◇ 血糖値を上げるホルモンは...グルカゴン
- ◇ グリコーゲン 100g をグルコースに分解した...111g

〔化学〕

- ◇ 正誤問題(正しいものを 1~3 個選ぶ): 電気陰性度・電子親和力・イオン化エネルギー
- ◇ 分子量の測定...アフィニティー・イオン交換・アガロース泳動・SDS 泳動
- ◇ 正誤問題(正しいものを 1~3 個選ぶ): オービタルについて ... (単語) 主量子数・s・p・d
- ◇ 正誤問題(正しいものを 1~3 個選ぶ): SN 反応と速度、ベンゼンと求核基、エーテルの加水分解、三級アルコールは酸化されやすい
- ◇ AgCl の溶解度積...どの溶液で沈殿を生じるか
- ◇ 緩衝液の pH...酢酸・酢酸 Na の濃度と量、酢酸の pKa が与えられている

〔物理〕

- ◇ α 崩壊を何回経たか
- ◇ (図あり) 斜面を転がって上って水平のみに 5m/s の速度
...初めの高さとの差を求める
- ◇ エレベータに関して連問 2 つ: (1)加速 → 等速 → 減速の説明あり...減速時の加速度を求める、(2)エレベータの移動 距離を求める
- ◇ 弦に * kg のおもりが下がっており、固有振動数が * Hz
... * Hz にするためのおもりを選ぶ

〔数学〕

- ◇ 3 次関数の最小値
- ◇ 半径 1 の円に内接する正 12 角形の面積
- ◇ 正 8 角形の頂点を結ぶ線と対角線からなる三角形のうち正 8 角形の頂点を 3 頂点とする三角形の個数
- ◇ 200 人中 85 人に虫歯...虫歯の割合の標準偏差を求める。
...不親切とのことで某掲示板で話題に
- ◇ 32 のチームがトーナメントを行う
...1 チームが行う試合の期待値を求める

KALS 生が多く、「簡単だったね」という声があちこちから聞こえたのですが、自分は細かいところがわからずまいちの出来でした。大学の成績も悪かったので、に関する課題論文が筆記通過の評価の対象になったのでしょうか。課題は「医師の偏在(3,000 字)」で、「概要」「箇条書きで問題提起」「解決手段の提示」の 3 部構成にしました。

弘前大三次試験

2006.9/23(土) or 24(日)

- ・ 2 日間のうち 1 日が指定される
- ・ 受験者数: 62 人...欠席 4 人 (2日目午前の段階)
- ・ 試験室は 5 つ
- ・ 時間はおよそ 1 時間
- ・ 受験生 1 人に試験官 3 人

荷物と受験票を手に持って入室。試験官の手元の資料には学科試験の答案らしきものもありました。3 人目の試験官ともなると「さ〜、何を聞こうかな」的なやっつけ的な雰囲気になったので、自ら質問をしていきました。

角度を変えながら何をやりたいのかを何度も聞かれました。志望理由の整合性についても突っ込まれました。資金計画は具体性が問われます。

地域医療については他の大学でも弘前大の二次試験でも聞かれましたが、三次試験に関しては表面的な知識では太刀打ち出来ません。

3 種類ある弘前大の広報誌の他、県の資料や他の地域のものまで隈無く目を通しておくと良いでしょう。広報誌を読んでおくと試験官の顔をあらかじめ知ることができるメリットもあります。「何科に進みたいか」という質問が出た際に威力を発揮するでしょう。

「医科歯科大から来てくれるとはね...我々もあなたのような人材をすんなり採用してもいいのかと迷っている」
「地域医療の定義・問題点・改善案などについて」
「自分が実際に地域医療関わっていく場合の 10 年後のビジョンについて」
「志望する診療科と専門外でやりたいこととポストの関係」
「無理に僻地に行かなくてもいいからね」
「基礎・教育・行政に行ってもらったほうが良いかも」
「ゆ〜ゆ〜はあなた自身が現場に行くのではなく、指導者になることで広く貢献してください」

弘前大の入学手続き書類の中に、編入生による「祝合格」冊子が同封されていました。編入生の数が多く、そして地元出身者が少ないからでしょうか。

島根大三次試験

2006.9/26(火) or 27(水)

- ・岡山大と重複、2日間のうち1日が指定される
- ・二次試験合格者数：41人
- ・集合時間の違いから欠席総数は把握できず
- ・地域枠受験者：恐らく7人(2日目最後にかたまっていた)
- ・今年から施設での試験+感想文がなくなった

控室に集合後、面接の資料となるアンケートの記入。
(30分・A4で1枚)

- 「得意なこと」
- 「やりたい分野など」
- 「自分の性格の自己評価と他人からの評価」
- 「コミュニケーション能力について」

- ・個人面接 20分 × 2回
- ・面接室は2つ
- ・試験官は4人
- ・手にストップウォッチを持っていた

面接室1

- 「学科試験の出来はどうだったか。」
- 「他にどこを受けているか。その結果はどうか。」
- 「受かったら来るのか。」
- 「受かるまでやるのか。」
- 「成績が悪いね。やる気あるの？」
- 「地元には戻らないのですか。」
- 「人間関係に悩んだらどうするか。」
- 「ボランティア経験について。」
- 「他の医療職じゃダメなのか。」
- 「コンピュータは得意か。」
- 「今までの学生生活を振り返ってください。」
- 「特急で通ってきた2つの湖の名前を教えてください。」

面接室2

- 「他の大学の地域医療プログラムとの違いは。」
- 「WWAMIは何の頭文字か。」
- 「島根県地域医療支援センターについて何を知ってるか。」
- 「島根県の人口は。」
- 「島根県の地域医療の方針。宮崎県や高知県との違いは。」
- 「ひとりで僻地に行ったらどう解決するか。」
- 「君みたいな人間を地域が求めていると思うかね。」
- 「最近気になった医療ニュースは何か。」

ずいぶん厳しい質問もありましたが、雰囲気からうわさ通り学科で決まるような気がしました。ちなみに「穴道湖・中海」は募集要項に載っていました。

新潟大二次試験
2006.9/29(金)

- ・受験者数：90人前後(予想)
→書類はおそらく全員通過
- ・問題用紙：理科は持ち帰り可能(追記：upしました)
→請求すれば前年度分を送ってもらえる

「英語」「数学・物理」「生物・化学」実質3コマです。組み合わせによる時間配分に注意です。

〔英語〕

よく覚えていないのですが、一般入試に似た標準的な形式でした。虫歯に関する長文問題がありました。大幅に易化しており、減点がなければ完答だと思います。

〔数学〕

- [1] 3×3行列の計算
- [2] 2次関数と面積
- [3] フーリエ級数
- [4] ラプラス変換

[1][2]は高校レベル。理工系出身とはいえ[3][4]はノーマークのためやや厳しく、しかも物理に夢中でほとんど書けませんでした。厳しく見積もると4問中2完でしょうか。

〔物理〕

- [1] 一般物理学と題して穴埋めが26個

角運動量、反発係数、第一・第二宇宙速度、単振動、慣性モーメント、線膨張率・ヤング率と張力、可逆熱機関、レンズ、ドップラー効果、交流回路とリアクタンス、ラジオのコンデンサ、磁束密度とSI単位、電子の静止質量とエネルギー、放射性元素の半減期

- [2] 記述、一方を選ぶ、それぞれ小問5個

A：力学(剛体)、B：熱力学(状態変化)

「数学を解かなければ」と気が焦り、計算ミスをしました。検算に時間を取られ、出来はいまいち。6割ほど。「数学・物理」のコマが終わった瞬間に不合格の予感がしました。

試験直後、後方から理工系のデキそうな人たちの「簡単だったね～」という話し声が。それを聞いて落ち込みました。確かに理工系出身者には楽勝の出題です。

〔生物〕

- [1] ホルモンと性周期...下垂体、脂溶性・水溶性ホルモン、着床、調節物質

- [2] 発生...細胞層、条件に合う生物の選択、器官の発生

傾向が変わり空所補充と選択が中心、記述なし。以前のように植物が出ることはありませんでした。ヒト以外の動物の分野が苦手で、7割ほどの出来。受験生の層が他に受けた大

学とは明らかに違っており、生物の出来はあまり良くなかったようです。

〔化学〕

小問集合

[1] 基本物性値の表の選択穴埋め(分子量、密度、最大密度温度、融点、沸点、熱容量、比誘電率、電気伝導率、表面張力、イオン積)、硫酸バリウムについて溶解度積の計算問題と造影剤への応用についての記述

[2] ド・プロイ波とボーア半径の計算

[3] 混成軌道・パウリの排他原理について記述

予想通りの出題。易化。8割ほど。

新潟大三次試験
2006.11/2(木)

- ・二次試験通過：15人
- ・欠席：3人

8:00 から入場可能、9:00 試験開始。自分は早い番号だったので10時40分に終わりました。途中休憩は10分が2回。個人面接の待機時間を加味すると、番号が遅い人は3時くらいまでかかったようです。

〔集団討論〕

- ・受験生7~8人がコの字型に座る
- ・3~4人の試験官が観察している
- ・1回30分、テーマを変えて2回行われる
- ・試験官側が入れ替わる
- ・筆記具持参、メモ用紙を兼ねたA4問題紙は持ち帰り可能

〔医師不足について〕

〔いじめについて〕

試験中、試験官はほとんど何も書いていません。明らかに不適、という人を落とす雰囲気です。ひたすら手元の書類を読んでいる様子でした。

試験の内容は事前情報とほぼ同じだったので安心しました。討論のテーマも無難でした。他の人の発言中も、うなずきながら常に試験官の目を意識していました。

〔個人面接〕

- ・時間：15分
- ・試験官：8人
- ・ストップウォッチにてカウント
- ・討論のときと同じ試験官

長机一列の試験官8人vs受験生1人と、いうのはなかなか圧倒されました。目線を配るのが大変でした。

初めは定番の自己PRかと思いましたが、開始早々「あなたを客観的に見ると他人からはどう映るか、を3分で話してください。ハイどうぞー。」という感じでなかなか焦りました。

その後、試験官が持ちまわりで質問を行い、余った時間で「他に何か聞きたい先生いますか」系。

評価シートらしきものをチラ見できたのですが、おそらく協調性・整合性・積極性・態度などの項目について5段階評価かと思われます。自分はほとんどが3でした。

「自分の長所をアピールしてください。」

「18歳のクラスメイトとやっつけていけるのか。」

「学業以外で楽しいことはあるか。」

「日本の大学院の現状について。」

「医療チームをうまくまとめられるのか。」

「なぜ理工学部→歯学部→医学部なのか。」

「卒業後の医師像は。」

「学費はどうまかなうか。」

「親はどう思っているのか。」

「いじめがあるクラスや医局など、自分が属しているグループが間違った方向に進んだ場合、どんな行動を取るか。」

学科重視とはいえ、ナメていると痛い目に遭いそうな雰囲気でした。個人面接は他大学に比べ、非常にテンポが速かったです。最後は笑いも取れてますますの出来でしたが、学科試験の出来がいまいちだったので期待はできませんでした。

新潟大には地域医療に関するGPがあったため、たまたま東京で開催されていた関係者の先生の講演会に出たりして知識を蓄えましたが、試験官の中にはそれらしい先生がいませんでした。よって地域医療の話題には触れないことにしました。向こうも特に話題を振ってきませんでした。面接前は「新潟出身だし、新潟県の僻地医療にどう？」とでも言われるのかな、と思っていました。ちなみに地域医療と僻地医療を混同している人がいますが、意味は違います。

〔2007年度入試：二次数後期入学の大学〕

旭川医大・浜松医大・滋賀医大・富山大・福井大・香川大・大分大・長崎大・鹿児島大

〔2007年度入試：学科試験日程の重複〕

5/27 ★香川大 ★浜松医大 ★福井大

6/24 ★鹿児島大 ★長崎大 山口大

7/4 ★★筑波大 医科歯科大

(★二次数後期入学／★★二次数前期入学)

【資料 3】 FAQ

mixi やメール、飲み会等での質問をまとめてみました。

「圧迫面接はありましたか。」

自分が受けた中ではなかったと思います。島根大で成績について厳しく突っ込まれましたが、これは圧迫の範疇には入らないと思います。島根大は特に県外人には厳しいようです。「免許を取りに来る人はいない」発言は有名です。

「人の役に立ちたいです」→「人の役に立つ仕事なら他にいくらでもあるけどね」のように、自分から突っ込まれどころを作らないことも大事です。

「試験の際に年齢差別はありましたか。」

年齢相応の振る舞いは要求されますが、どの大学でも年齢差別をしている雰囲気はありませんでした。履歴書に空白があると突っ込まれます。経済的な計画を含めた、万全な準備をおすすめします。

新潟大 2007 年度 2 年生のうち、編入生は 5 人、一般入試で入った学士は 9 人です。全学年を見渡すと、多浪や留年などを経験している人は少なくないです。入学後、事務の人に「しばらくすれば学士も普通の人ですから」と言われました。

「新潟大の編入生の出身内訳は。」

学士編入 1～6 期生を通して新潟県出身者が特別に多いということはありません。むしろ少ないです。いない年もありました。2007 年度は 2 人でした。2 年次前期入学への変更により、志望者の層が変わると思われる。

県内出身者 3 割の一般入試と同様、関東地方の出身者が多いような印象を受けます。受験時の身分は 2007 年度の場合、学部生 1、大学院生 3、公務員 1 でした。入試科目の理由でしようが、一般入試での学士の人も含め、純粋な文系というか、理系の知識を持ち合わせていない人はいません。

「就職時に年齢差別はないのですか。」

病院によると思います。出願時に年齢制限をしている病院もありますが、話を聞く限り、成績や学閥と同様に気にしていないことが多いようです。むしろ熱意や適応力のようなものが評価されるのではないのでしょうか。ちなみに「平成〇年卒」という肩書きはずっとついて回ります。

「ボランティア活動は必要でしょうか。」

何のためにボランティアをやるのでしょうか。純粋に自分の経験のためならやってみても良いとは思いますが、受験のためにはやるのなら首をひねりたくありません。

履歴書に書くことがなかったり、面接で話すことがないからやってみたい、という戦略的な考え方もあるでしょう。その経験をどう発信していくのかは本人次第です。

しかし中途半端な気持ちで志願した場合、高齢者、障害者、ホームレス、孤児など、ボランティア先で関わる相手はどのように感じるか、ということも考えてみてください。

ちなみに某大学では入試でのボランティア活動(施設実習)が廃止されました。理由はいろいろあったのだと思います。

「予備校で併願先として歯学部を勧められました。」

良くも悪くも医学部と歯学部とでは世界が違います。本来は医療として、あるいは医学の一領域として歯科が存在すべきなのですが、その歴史的経緯から日本では独立した資格として、そして独立した学部教育になっています。

それぞれを取り巻く社会環境や、学問的なスタンスなどは大きく異なります。歯学部について詳細な検討を重ねた上で、歯科医療の素晴らしさや奥深さに興味を持って選択するならまだしも、安易に併願校のひとつに加えることは後悔につながるかもしれません。

筆記試験の難易度云々で併願を決めることはできますが、実際の教育やその後の仕事の内容を的確に測る尺度はありません。かつて医学部受験に失敗して併願先の歯学部に入り、卒後口腔外科に進んだものの、病棟における糖尿病患者の扱いに困った人など、勉強するほどに医師との業務上のギャップに悩む事も少なくないようです。

「受験情報をどのように整理していましたか。」

自分にとっての情報処理のルーツは「超勉強法」で知られる野口悠紀雄氏の著書です。押し出しファイリング法などの知的生産術のノウハウはとても参考になります。デジタルデバイスの進歩など、時代に合わせて変化をしていますが、根本は変わりません。

とにかく、どんどん増える情報を「労力をかけることなく」利用できる状態にしておくことが目標です。整理魔になってはいけません。情報の形態は様々である上に、分類をし出すと大変なことになります。この辺は野口氏の著書以外にも参考になる本がいくつもあるのですが、自分に合ったものをうまく取り入れると良いかと思います。

デジカメ・プリンタ複合機・ADF スキャナなどのハードもさることながら、コンピュータの基本機能のひとつである検索の駆使も生産性を上げます。インターネット検索だけではなく、PC の基本機能であるローカル検索も活躍するという事です。→ Google Desktop や Spotlight など

文章を書く際のブレインストーミングや面接対策の思考には、アウトライン・マインドマップ系のソフトが便利です。

FreeMind や NovaMind など、日本語が利用できるものだけでも百種類以上はあるのでしょうか。Microsoft Word にもそういったモードがあります。見た目が好みに合うもので、操作性が良く、互換性があれば何でも構わないでしょう。

自分は MyMind・MindNode などのソフトを使っています。多機能ではないのですが、無料で動作が軽いので愛用しています。見た目に美しい map(tree) も魅力です。map はビジュアルに訴えるので直感的な理解の助けになります。これも思考の道具と割り切るのみで、美しい map を作る事が目的になってはいけません。

「文系ですが、入学後についていけるのでしょうか。」

最近は分かりやすい本も豊富にありますし、モチベーションさえ高ければ何とでもなると思います。しかし実験科目でデータの処理ができなかったり、化学式・化学反応式・化学平衡・log の概念もわからないまま「体液の pH は 7.4! 」と暗記したり、エコーと X 線の違いを知らないまま臨床に出てみたり、という事例もあります。

先生側としては「そんなことも知らずに...」と面白くないのかもしれませんが、「覚えられればいいじゃないか」という学生側の反発もあります。確かに一般入試でもあまり理科をやらずに入学する学生がいるので、入試の制度そのものに問題があるのかもしれませんが。

とにかく文系出身者でも人並みの暗記力があれば卒業はできますし、国試にも合格できるはずです。過去の実績が物語っています。

「歯学系・看護系は入試で嫌われるのでしょうか。」

自分の知る範囲で、(一般入試を含めて)歯学部卒業者を受け入れている大学は以下の通りです。他にもあるはずですが。

北大・旭川医大・札幌医大・弘前大・東北大・秋田大・筑波大・千葉大・医科歯科大・新潟大・信州大・岐阜大・山口大・長崎大・日大・東海大・帝京大

歯学部卒業者の中には医科歯科大や千葉大で教授になっている人もいます。ちなみに歯学部卒(または見込)の場合、阪大医学部の編入試験には出願ができません。(追記: 学士編入試験から編入試験に変更になった都合で出願できるようになりました)

医療系出身の場合、面接における突っ込みも厳しくなると思います。特に看護師さんは医師と同じ職場なのでなおさらでしょう。そのため、不合格だった場合に良からぬ噂が立ちやすいのかもしれませんが。

「一般入試の対策はいつから始めましたか。」

一般入試にはずいぶん前に敗れたので、今回は学士編入一本でいくことにしました。一本といってもたくさん受けていますが、どこにも受からなかったらそのまま研修医をやっていたと思います。

「解剖学はラテン語で行われるのでしょうか。」

全国的に英語が浸透していると思います。新潟大はラテン語+英語の方針です。日本語で nomina を書くと減点がある問題もあります。同様に、カルテもドイツ語ではなく英語が多いです。というか日本語も多いです。

「教科書を買わなくてもシケプリで通ると聞きますが。」

一冊も買わずに...といったような武勇伝は鵜呑みにしない方がよいと思います。あくまで結果論ですし、裏では勉強していたかもしれません。テストを乗り切れればいいや、というスタンスだといずれしんどくなってきます。間違ったシケプリを鵜呑みにして大量虐殺というのもよくある話です。

科目によっては多少古くても OK なので先輩に譲ってもらったり、オークションを利用したりするのも有効です。自分の蔵書数は 2 年生の現在で 150 冊くらいです。およそ 4 割をオークションで入手しました。中には新品同様の出品物もありました。(自分はダメ学生なので、全ての本を読みこなしているわけではありません)

図書館も活用しましょう。試験前は本が消えてしまうので、オフシーズンがおすすめです。

「〇〇大の情報をください。」

ML や BBS の他、直接送られてくるメールでも多い件です。まずはネットで検索してみましょ。初めから全ての情報を質問することで得ようとする人がいます。自発的に調べようとしない人に対する周りの反応は冷ややかなことが多いです。

自発的に調べるくせがつかないと、入学してからでなく卒後も苦労することになるかと思えます。これは医学部に限った話ではありません。

基本的に教えたがり屋の人は多いので、自分で調べた上でうまく質問をすると効果的かと思えます。漠然とした質問ではなく、的をしぼると良いでしょう。

良い「帝都大に 30 歳以上で入学された方はいますか」
悪い「どこでもいいので去年の問題をください」

どうしても調べたくない場合、あるいは調べる時間がない場合は予備校に行きましょう。時間と手間をお金で買うのも一法です。予備校への批判もありますが、存在してしまっている以上、利用する価値があるなら利用しても良いのではないのでしょうか。過去問などは簡単に手に入るはずですが。

「どこかに情報が集まっていないのでしょうか。」

Yahoo! ML (medschool) に集まっています。大学名で検索すればヒットするでしょう。しかし衰退の一途をたっています。最近では「医学部学士編入スレまとめサイト」が有用です。FAQ も充実しているので一読をおすすめします。

「誰かに書類や小論文を添削してもらわなかったのですか。」

友人に見てもらったりしました。自分が完璧と想着いても抜けはあるものです。特に日本語の表現は小論文だけでなく、英語の答案にも関わるので重要です。臨床でも情報交換は大事なので、聞く耳を持つことは大切なことだと思います。とにかく何度も推敲を重ねました。一度時間を置くと冷静に文章を見ることが出来ます。

...などのような当たり前のことから実践できれば安心して面接に臨めると思います。就職を乗り越えている人には易しいかもしれませんが。面接の回数を重ねるほど心の余裕が生まれた気がします。変に慣れてもいけません。

その大学が学科重視・面接重視のいずれであるか、を判断することも重要です。スクリーニングのための面接でアピールが強過ぎるのは逆効果かもしれません。

「家庭教師をバンバン入れれば学費くらい稼げそうですが。」

もちろんそうでしょう。しかし学業と両立できるかどうかはやってみないとわかりません。そして地方都市には高給のクチが少ないです。せいぜい3,000円/hくらいかと。

よほど金銭に困っている場合を除き、自分の勉強に時間を充てた方が有意義かもしれません。医師として働き出したら本を読む時間はないでしょうし。

薬剤師の人などは、どの都市でも簡単に仕事が見つかるようです。今後は薬剤師バブルが来るので事情は一変しそうですが。自分は某歯科大の学生の国試対策をしています。

「かつて育英会でお金を借りていたのですが...」

ごく簡単に言うと一種は二重に借りることはできません。日本学生支援機構(旧育英会)のサイトに詳しいFAQが載っています。

「面接対策で気をつけたことは何ですか。」

面接対策本が氾濫しているくらいですし、ノウハウは多岐に渡るので書ききれませんが、

- ・第一印象は大事、靴の手入れも忘れない
- ・全ての面接官の目を見る
- ・落ち着いた口調で大きな声でゆっくり話す
- ・「えー」「そうですね」「まあ」「...の方」などを省く
- ・用意してるネタを全て披露しようとしな
- ・言いたいことがあれば自分で話題を誘導する
- ・時間に余裕がある場合は自分から質問してみる
- ・面接室を出るまで気を抜かない、待機中も同様

「入学後にかかる費用はどれくらいですか。」

普段の授業に使う教科書に関しては、単純計算で「履修する科目数×福沢さん1~2枚」といったところでしょうか。大学によっては過去問や試験対策のコピー代が卒業までに数万円かかるようです。

他にも共用試験(OSCE & CBT)の受験料が約3万円(負担してくれる大学あり)、聴診器が1~5万円、国試問題集に10数万円、模試に1回1万円、就活時の交通費、国試受験料、謝恩会費、同窓会費、さらに医籍登録料として6万円...などが挙げられるでしょうか。

また、忙しい時期は外食も増えるでしょう。試験の過去問や試験情報などが得られたりするので、友達との付き合いも無視できません。最近はどこかの大学もPBL(チュートリアル)の割合が多く、勉強だけの生活を送っていれば良いというわけにもいきません。適度な人間関係も重要になってきます。孤立することは昔と違って精神的に辛いです。卒後は医療チームの一員となって、職場を支えていくわけですから、ある意味で必要なスキルなのかもしれません。

面接では資金計画についても聞かれることでしょう。奨学金や授業料免除などのうち、確定していないような資金源はなるべく前面に出さない方が良いでしょう。また、過度なバイト計画も良い印象は与えないでしょう。余裕を持って勉強に打ち込めるだけの用意がある、という雰囲気を出せるかどうかにかかっているように思います。

親や親戚、配偶者に支えてもらえるのなら、それをありがたく受けるのもひとつの道ではないでしょうか。卒業後に出世払いで返し、社会にも貢献できれば良いのですから。

「編入試験対策に英語論文を読みたいのですが。」

京大のLSD プロジェクトの「オンデマンド英語教材」が便利です。英文に注釈が付くので辞書なしで読めます。しかも無料です。ちなみにこのサイトにはIM用変換辞書もあります。臨床には向いていませんが、基礎医学には十分です。入学後、レポート作成などに役立ちます。

「生命科学って範囲が広過ぎると思うのですが。」

本文にも書きましたが、広いと思います。しかし入試に問われやすい箇所や、トレンドというものがあるはずなので、過去問とにらめっこしながら自分なりに分析をすることです。そういう作業が苦手なら、予備校に投資するのも一法だと思います。

なお、入試レベルの生命科学で挫折しているようでは入学後に苦勞すると思います。医学部で扱う生命科学(基礎医学)のレベルは大学によりまちまちですが、その後国試までに必要とされる知識の量は入試の時とは次元が違うので覚悟しておいてください。ただし、特別な才能は必要ありません。

「名の通った教授に推薦状を書いてもらうべきですか。」

推薦状で差がつくとは思えませんし、通常は必要ないのではないのでしょうか。「自分でドラフトを書いてから見せに来い」という人もいます。ただし、予備校の先生に書いてもらうのは論外でしょう。どうも事例があったようです。

「コネってあるんですか。」

あるかもしれません。ないかもしれません。こういった噂に左右されたくなければ、学力重視の大学を第一志望に据えるべきでしょう。

研究者志向の選抜の場合、出身研究室の知名度や推薦の仕方が影響するかもしれません。否定はできないでしょう。ただしコネだけで合格できるとは思えません。それなりに学力に自信があって興味のある研究室があるのならば、院試の準備同様に研究室を訪問してみるのも良いかもしれません。

「なぜ3月末に追加合格が来たりするのでしょうか。」

併願校に合格が出れば、辞退による繰り上げ合格が発生します。最終発表の時期によってはかなり遅くなるでしょう。また、一般入試と併願してる人もいます。当然遅くなります。こればかりは運でしょうね。仕事を持っている人には辞めるタイミングの都合をつけるのが厄介です。

「授業料免除の状況はどうなっていますか。」

新潟大では限られた予算の中でより多くの人に恩恵を、ということで半額免除を多くしているそうです。社会人経験者には別枠が用意されています。

成績の基準はゆるいようです。可が1/3未滿ならば大丈夫、ということを知った事がありますが、詳しくは知りません。

「薬学卒ですが、基礎医学系科目の免除制度はありますか。」

一般入試の場合に教養科目の免除があることはよく知られていますが、専門科目はそうはいかないことがほとんどのようです。入学後、個別に問い合わせてみてはいかがでしょうか。空き時間にアルバイトという計画はアテになりません。

「授業料免除以外の奨学金ってどうですか。」

日本学生支援機構(旧育英会)以外にも都道府県・民医連・徳洲会・矯正医官・保健所などがありますが、安易な選択は進路の幅を狭めます。目先のお金に捕らわれないように。

「入学手続の書類が来てから入学までは、特別講義や課題などはないのでしょうか。」

新潟大の場合、書類が到着してから4月まで大学側からは何のアクションもありませんでした。他大学を辞退していることもあり、合格そのものを疑ったりしたものです。社会人には残務整理などが待っているのでしょうか。年によって変わるかもしれないので、心配なら学務係に直接問い合わせてください。

「合格後、入学までに何か予習しておくことはありますか。」

自習できるレベルには限りがあります。恐らく入学後数週間でカバーできてしまいます。それほど卒業までの勉強量は膨大ということです。

ということで、勉強以外でやりたいことを思いっきりやることをおすすめします。友人との再会やお別れ(という名の宴会の連続)、遠方への旅行など。

どうしても、どうしても、勉強したいというのなら...「イラスト解剖学」でも読んでみてはどうでしょうか。医・歯・薬・看護系のみなさんは生理・生化・薬理・組織・解剖などの復習を試みるのも良いかもしれません。(入学後に復習の時間は十分にあるはずですが)

「USMLE*の対策をしている人はいますか」

* United States Medical Licensing Examination (米国医師資格試験)

どこの大学にもいるはず。思い立ったらなるべく早期にアクションを取ることをおすすめします。試験の仕組みを把握し、学内外の体験者に話を聞いてみましょう。そして何のために受けるのか(これが一番重要)をよく考えてみましょう。

行動科学などUSMLE独特の勉強もありますが、大半は日々の勉強が土台になります。講義でやったことと同じ内容を並行して英語で自習してみてください。

参考書に関しては、Amazonあたりで検索して売り上げや出版年月で上位にくるものを買ってみましょう。

「First Aid for the USMLE Step 1」
「USMLE Step 1 Made Ridiculously Simple」
「NMS Review for USMLE Step 1」

自分は留学の予定は全くありませんが、採用試験対策の一環としてぼちぼち解いています。一部の病院では USMLE の問題がそのまま出るようです。あくまでごく一部の話なので、自分が受ける病院の過去問を見てみてください。

第 103 回国試から英語の問題が課されるようですが、落とし所とは思えないので、攻めてはこないでしょう。初の問題を見てみたいものです。

「県外出身学生の卒後の就職について。」

関東周辺の出身者が多いので、就職も関東を中心とした地域の志望が多いようです。前述の通り新潟大医歯学総合病院の志望者は多くありません。旧制六医大といえども千葉大などと同じで、学閥は県内にほぼ限定されます。済生会川口病院・済生会水戸病院・新東京病院などのように、他県で院長や部長を務めている人もいます。

他県の病院にマッチできても安心はできません。特に大都市の病院は継続雇用や、初期研修修了後の就職先の斡旋をしないことが多いようです。その場合は後期研修先を探すか、自分で就職活動をするようになります。それでも無理な場合は出身大学の医局に戻るようになります。

「車で通学できますか。」

新潟市中央区にある新潟大病院は、慢性的な駐車場不足に困っています。駐車場の拡張後も車の行列に悩まされています。グラウンドを潰す計画もあります。なので、医学部のキャンパスについては当然のことながら学生用の駐車場はありません。自分で学外に駐車場を借りるのなら別ですが。

「留学のチャンスはありますか。」

基礎・臨床ともにチャンスがあります。行き先は東南アジア・北米・ヨーロッパなど多岐に渡ります。基礎の方は東大や医科歯科大などの国内留学先もあります。単位が認められるので、長期休暇中に行く必要がありません。詳しくは教育改革推進室のサイトを見てみてください。

「自分も歯科医師ですが、医学部の勉強はどうですか。」

よく来る質問です。出身大学のカリキュラムにもよると思いますが、自分の歯学部時代の成績は平凡でしたが、今のところ問題ありません。今後、学年が上がるにつれて臨床科目が増えていくと思いますが、OSCE も含めひと通りやっているので甘えられません。以下、気になる点を。

- (1) 既に同じことをやっている
→ 基礎医学(含む解剖・組織・薬理・病理等)

・ 公衆衛生・麻酔学

- (2) 知識はあるが、手技が未熟 or 未経験
→ ほとんどの臨床科目
(3) 歯学部の講義の方が詳しい
→ 放射線学など

新潟大の場合、歯学部時代の講義から比べるとほとんどの科目が「広く浅く」という感じがします。大学によって差があると思いますが、科目の数が多いので仕方がないのだと思います。その割に時間にゆとりがあり過ぎるのも事実ですが、自習時間が多くて良いのかな？と解釈しています。

「歯科と関連する疾患にはどんなものがありますか。」

同じ境遇の人のために書いておきます。

- ・ 感染性心内膜炎 (感・循)
- ・ Buerger 病 (循)
- ・ 誤嚥性肺炎 (感・呼)
- ・ 睡眠時無呼吸症候群 (呼・耳)
- ・ 歯周病と糖尿病 (感・代)
- ・ 歯周病と早産 (感・免ア・産)
- ・ 掌蹠膿疱症 (皮・免ア)
- ・ 摂食嚥下機能改善と口腔ケア (感・耳) ほか

【資料 4】 後日談 1 (入学後)

入学してからの時間はあっという間に過ぎていきました。引越しの後片付けなど、やるうとしていたことをほとんど消化できていないまま講義や試験を迎えました。

大学の周辺(新潟市中央区)は家賃や駐車場代が高いものの、都市部なので生活しやすいです。深夜営業の飲食店(勉強場所)が少ないので、試験前は知り合いに会う確率が高いです。

東京へは最速の新幹線で 100 分です。夏はフェーン現象により相当に暑い日があります。大学から海まで 800m なのでマリンスポーツもおすすめです。冬は当然寒いのですが、ここ十年くらいは雪はほとんど降りません。

編入生も普通に部活をやっています。試験の過去問は売店でコピーする形式です。他大と違って組織的な試験対策の文化はないようですが、ローカルには流通しています。

授業は半集中講義の形式です。月曜*限が*学で...というやり方ではなく、3~4 科目ほどが同時に帯で進行します。例えば火曜~金曜午後の帯で組織学の講義と実習が組まれていたりします。

試験は学期末ではなく、科目が変わる節目ごとに行われます。常に何かに追われている感じですが、試験日程が集中しないので、直前に詰め込む知識量が少なく済みます。

2007 年度 2 年生の実際：細胞生物学 4/20・組織学総論 5/8・発生学 6/4・生化学 6/5・生理学 6/15・組織学各論 7/11・疫学 7/24・生理学 7/26・解剖学 7/27

一般入試では二次科目理科導入や後期入試廃止、学士編入でも 2 年次前期入学への変更など、試行錯誤が行われています。全国的にカリキュラムにゆとりがなくなっている流れからすると、このような変更も自然なのでしょう。自分は学籍上 3 年生の身分ながら実質 2 年生の授業を受けています。

PBL(グループ学習・チュートリアル)の比重が大きいため、知識の不足が懸念されています。病理学各論などは臓器別かつ PBL とのことで、習得の目標を達成するまでに途方もなく時間がかかります。

(追記) 3 年生から早くも臨床の授業が始まりましたが、やはり PBL 形式です。先輩の話を聞くと、系統講義がないためにほとんど身に付かないそうです。共用試験・国試・ポリクリ等を見据えて早いうちから自分で勉強する姿勢を身に付けないと、あっという間に時間が過ぎていくと思います。

以前の大学ではちょうどカリキュラムの狭間で PBL が導入されておらず、この点で多少有利だった気がします。知識が足りないと CBT 対策などの点でも辛い気がします。

組織学を修了する前に病理学が組み込まれている大学もあるようで、例えば「肝細胞を見ていないのに肝硬変の講義がある」といった弊害が生じています。教育委員会というのは当然持ち回りなので、教育に興味のある先生方がカリキュラム作りに関わっていないことも原因のひとつです。

新潟大の募集要項の言頭には MD-Ph.D がどうのこうのと書かれていましたが、面接で触られることはありませんでしたし、入学後も進路についてはノータッチです。先生方からの扱いは一般入学生と何ら変わりません。若干放置気味ですが、遊びに勉強に研究にと、好きなように時間を使えるのは大きな魅力です。

他大学と比べると、新潟大の編入生にはゆとりがある気がします。講義は 16:20 に終わり、残業も少ないです。長期休暇も夏休み+冬休み+春休みで計 3 ヶ月強あります。編入生向けの補講などありません。

(追記) 補講は 3 科目だけありますが、きつくありません。

ゆとりはありますが、一般入学生にくらべて国試までの準備期間が少ないようです。この辺は合格率に関わるので、入学時に何度も注意されました。(他の大学の編入生と比べると実質的な持ち時間は同じはずなのですが)

社会人を経験した人には「長期休暇や放課後のゆとりなんていらないから、カリキュラムを詰めて 3 年次編入を継続して欲しい」という気持ちもあるかと思います。

2 年次編入となると卒業が 1 年伸びるわけですから、医師として働く 1 年が削られるわけですね。気持ちの面だけでなく、生涯賃金も減ります。退職直前の医師の年収は学生のうちのバイト代とは比較になりません。借金をしている人にとっては大きな問題かもしれません。

臨床実習は附属病院(前半)・協力施設(後半)の 2 つに分かれています。編入生は研究室実習と協力施設での実習がない分、2 年次への合流でも 4 年で卒業できるようですね。2~4 年次で一緒に座学を乗り越えた仲間よりもひと足先に卒業してしまうのはちょっとさみしいです。

新潟県で就職しようとしている人の中には「協力施設での実習がないのは雰囲気を知ることができない&顔を売れない点でイタイ」と言う人もいます。